



【病院だより】

仙南サナトリウム

この地域と共に歩んでいきたい
～さらなる精神科地域医療の質の向上を目指して～



院長 本多 修

平成 28 年東北大学医学部精神医学教室年報に寄稿したものです。ご笑読いただければと思います。

当院は宮城県の仙南地域（仙台都市圏の南に位置する 2 市 7 町で構成された行政地域）の白石市にあります。白石市には、新幹線の白石蔵王駅、東北本線の白石駅、東北自動車道の白石インターチェンジと、仙台や首都圏ともダイレクトに結ばれており、交通の便がいい所です。

その白石市の南東、白石蔵王駅から車で 10 分程度の丘陵地に昭和 61 年 1 月に開院。平成 29 年で開院 30 周年を迎えます。開院以来地域の方々との交流や関わりを大切にし実績を積み重ねてきました。

平成 8 年に医療法人社団に組織再編、平成 10 年に地域移行支援を進めるべく共同生活援助事業であるグループホームを新設、平成 14 年には日本医療機能評価機構の評価と認定を受け、質の高い医療の提供への努力を重ねました。

平成 15 年には認知症患者治療病棟の増床を行い、現在は精神科病棟、精神療養病棟、認知症治療病棟 2 棟の 4 棟で、総ベット数は 216 床です。

平成 18 年には東北大学病院地域医療連携施設としての認定も受け、登録後も機能分化に努めています。

また平成 26 年 9 月には宮城県認知症患者医療センター（地域型）としての指定も受け、専門診療機能を持つ病院として地域の精神保健福祉医療への貢献とさまざまな専門分野の方々の架け橋になれるよう努めています。

現在、東北大学病院精神科医局からは、松岡洋夫教授のご高配により、後期研修で李宇鐘先生、パートで和田努先生、その他週末の日当直でもお世話になっております。

現在、李先生を除いた常勤医としては私を含めて 5 名（内精神科医は 3 名）、内科や外科を長年勤めてこられてきた先生にもお手伝いいただいて

おり、高齢化（平均年齢 64.7 歳）がすすんでおります。

平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査によりますと、都道府県別にみた人口 10 万人体医師数（平成 26 年）では全国平均数が 233.6 人。宮城県は平均を下回り 220 人強で、その宮城県の中でも較差があり、最大の仙台市が 263.3 人に対して当仙南地区は 138.9 人で県内最小となっており、格差は 1.9 倍です。

その他の看護師等の専門職の人数も当仙南地区はとても厳しい状況にあります。

どうぞ、当地域で働きたいとご興味のある先生はご連絡ください。

先日、精神科病院協会の研修会に参加してきました。その中で精神科病院協会会長の山崎學先生の講演がありました。

先生は今後の精神科医療の課題として以下の 11 の事をお話されていました。

1. 精神障害者の地域移行
2. 高齢精神障害の増加、特に認知症問題
3. うつ病患者の増加
4. 減らない自死数
5. 遅れている発達障害対策、特に大人の発達障害、過剰診断問題
6. 児童精神科医の不足
7. 総合病院精神科病床の減少
8. 臨床研修医制度から始まった医局機能低下、指導医不足
9. 相模原事件の検証と精神保健福祉法、医療観察法の抜本的見直し
10. 専門医制度
11. 精神保健指定医不正申請問題

私たちは上記の山崎先生の挙げた課題を頭においておきながら、今後の人口ピラミッドの変化、厚生労働省が進める医療・介護提供の見直し、精神疾患を有する総患者数の推移と入院患者数の推移、平成 16 年 9 月厚生労働省精神保健福祉対

策本部決定の「国民の理解の進化」「精神医療の機能分化」「地域生活支援の強化」から「入院治療中心から地域生活中心へ」という基本方策の上、当院も含めた精神科病院のありかたを考えていかなければなりません。その他現在は県の医療計画には精神科病院は含まれてはいませんが、精神疾患も含まれた五疾病と五事業に対応する地域医療構想での二次医療圏内基準病床の事や地域医療連携推進法人の事、地域包括ケアシステム制度の中での精神科病院の役割など社会的な存在の意義がより問われる時代となってきています。いずれにしても国は2025年そして2035年を目標にこの国の医療制度の姿を一つの方向に導きつつあると言えます。

その中で精神科病院に限らず、精神医療は生き残りをかけ、これまでもこれからも、患者さんご本人を中心に、ご家族、地域の関係機関、身体科の先生、その他街で生活をしている地域の全ての人々がつながること、理解を深めてもらうことが必要であり重要であると思います。そして地域での精神医療を行っていくために、私たち精神科医が時には媒体となり、時にはリーダーとなること

が大切だと思います。現在、私自身は管理職となり、なかなか外の仕事をするのが少なくなりましたが、若い先生方へのメッセージとしては「精神科医よ、外へ出よう。いろんな人と話をしよう」ですかね。

その他若輩ですが、医師会活動や地域の行政の仕事もさせていただいております。地域のことが見えてきます。未来への投資はなかなか出来ない現状ですが、今の地域で起こっている事や問題に精神科病院として何が出来るのかなと思う毎日です。もちろん出来ない事ばかりですが、今後も未永くこの地域で必要とされるように、この地域の一員でいられるように頑張っていきたいと思えます。

以上、まとまらない文章となりました事をお詫びいたします。同窓会通信での病院紹介の依頼でしたが、思いつくまま書いてしまいました。

最後になりますが、この原稿の機会を与えていただきました松岡洋夫教授、本多奈美医局長、年報編集委員である小原千佳先生にお礼を申し上げます。そして、今後益々の東北大学精神医学教室同窓会の先生方の御発展をお祈り申し上げます。